

年 頭 所 感

2006年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。会員諸氏そしてご家族の皆様におかれましては素晴らしい新年をお迎えになられたことと存じます。

昨年は、現執行部に与えられた最後の1年でありました。昨年7月に開催した代議員会において提出された組織強化に関する特別委員会からの答申に沿って現在会員種別の策定など、2月に開催予定の代議員会に向けて議案上程の手筈も整い、漸く同窓会の基盤再整備の最終段階を迎えようとしています。ここに至るまでにはいくつかの障害もあり、若干の遅れはありましたが、執行部諸氏のご尽力と会員諸氏のご理解のもと、その歩みは着実に進んでいると自負しているところであります。

「同窓会とは？」この3年間自問自答してきました。そして「同窓会」と「母校」の良好な関係、「同窓会」と「父母の会」、そして「学生」との直接的な「ふれあい」が「組織強化」の基本であるとの認識に基づいて、漸くそれぞれとの良好な関係構築が確立しつつあります。一例としては、父母会との意見交換の場を増す事で父母会と認識の一致を見、また学生との関係強化のため学生会との話し合を行い、学生会への支援も学生の意見を聞きながら進めております。加えて同窓OBによる学生への講義についても鋭意、大学と協議していきたいと考えております。したがって今年度の事業計画は、この「組織強化」を中心に据えて編成いたしました。このように私は「神奈川歯科大学同窓会」の再生にはどうしても「組織強化」が不可欠であるとの認識のもとで、何とかその道筋を示すことができたと考えています。しかしながら、時代に即した「望ましい同窓会」を再構築するためにはまだ若干の時間と歳月が必要であります。今後も会員諸氏のご理解とご賛同を頂くことができれば、私は会長としての職責を継続し、「時代に即した望ましい同窓会」の再構築に邁進する



会 長
藤 田 晃

所存であります。宜しくお願い致します。

さて今、日本歯科医師会会長選挙が行われています。厚生労働省の医療制度構造改革の試案、政府経済財政諮問会議の意見、そして今年4月からの診療報酬の引き下げ改定など、歯科医療界は大変厳しい状況におかれています。したがってこれら諸問題解決のためには今まで以上に日歯会長の強いリーダーシップが望まれることは言うまでもありません。このたびの日歯会長選挙は、全国からの選挙人と日歯代議員の646名による直接投票によって行われます。そして今回、我が神奈川歯科大学同窓生の中から33名の選挙人が誕生しました。このような状況のもと、神奈川歯科大学同窓会は今後日本歯科医師会への協力や、提言ができるような強い団結力を持った同窓会活動をおこなうべく、昨年12月の理事会において全会一致で井堂孝純候補者を次期日本歯科医師会会長として推薦することを決定いたしました。現在3名の候補者が立候補していますが、選挙人各位におかれましては本会のこのたびの決定を念頭において、今後の歯科医療界の発展のために強い指導力を持ち、全国会員からの信頼と負託に答えられるような立派な方を選ばれるよう切望するところであります。

それでは今年1年が皆様とご家族にとって素晴らしい年になりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

(平成18年1月元旦)